◇ 巻 頭 言 ◇

分析化学の傘を広げるために

岡　田　　哲　男

日本分析化学会の会員の皆様，新年あけましておめでとうございます。今年も，皆様にとって良い年になりますよう祈念致します。旧年の５月に日本分析化学会の会長を仰せつかり，初めて迎える新年です。年頭に当たり，学会活動に関する考えを簡単に述べさせていただきます。

昨年は，５月に京都で討論会，９月に東京で年会が開催されました。いずれも多数の参加をいただき，成功裏に終了しました。討論会は近畿支部にご担当いただきましたが，年会は初めての試みとして本部主催で行いました。年会の初日と二日目には Asia/CJK シンポジウムが同時開催され，海外から多数の方が参加されました。JASIS の展示会と連続する日程であったため海外からの参加者が出席しやすかったと思われます。年会の会場内で外国からの参加者が多数出席する英語セッションが開催されている，これは今後の年会の一つの方向性を示唆しています。また，討論会，年会の両方でチュートリアルセッションが開催され，学生を中心に多数の出席者がありました。学生に限らず，分析実務従事者，大学教員等にとっても大変有意義なものでした。社会や教育現場からの要請に応えることも分析化学会として重要な使命の一つであり，公益事業にも適う継続すべきことだと思います。

個々のイベントの成功とは裏腹に，日本分析化学会の会員数は右肩下がりを続けており，そのために会費収入も減少しています。会員からいただいた会費を元手として学会活動を行うのが学会の基本ですが，このまま推移すると本来の活動を抑制せざるを得なくなります。会員減少は日本分析化学会に限ったことではありませんが，本会特有の問題点もあり，したがって本会ならではの対策や解決法もあると思います。本会の重要な特徴は産業界会員が全会員の半数以上を占めていることです。しかし，学界，官界の会員が学会運営に携わることが多いため，産業界会員の声が学会活動に反映されにくい実情があります。現在，年会や討論会で産業界シンポジウムが行われており，その活動の認知度は高くなってきました。また，これまでも分析士や講習会などの事業を通じて産業界会員の声に耳を傾けてきました。このような活動に加えて，産業界からの学会への期待，会員のニーズを産業界目線で掘り起こすための調査や議論を始めています。産業界に日本分析化学会の会員であることの利点をより明確に認知してもらえるようにしたいと考えております。

一方，官界，学界の研究者にとって，学会の利点とは何でしょう。学会で得られる情報や活動を通じて構築する人脈，そしてそれらが研究業績や研究費の獲得につながることが期待されていると思います。近年の学会活動はこのような観点からの利点が見えにくくなっています。英文誌 Analytical Sciences のプレゼンスを高くすること，本会が関係する分野にプロジェクトなどを誘導すること，年会などでも国際的な交流の場を提供すること，学生を含む若手研究者が成長を実感し，将来への期待と展望を持てることなどを通じて，日本分析化学会会員であることの利点と誇りを感じてもらうことが重要だと思います。これらはすぐに達成できるわけではありませんが，このような方向性を探りたいと考えております。本年も会員の皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

〔Tetsuo Okada，東京工業大学理学院，日本分析化学会会長〕